Leech, John

Follies of the year ; a series of coloured etchings from Punchs pocket books 1844－1864, with some notes by Shirley Brooks.

[London], Bradbury, Evans, [1868]（文献番号 11－64）

リーチ画

愚行歳時；1844年から1864年までの『パンチ・ポケットブック』彩色エッチング・シリーズ、シャーリー・ブルックスの説明付き

本書は1844年より1864年までの20年間にわたって、年一枚、その年の世相を最もよく象徴する服装風俗戯画でつづったジョン・リーチの画集で、これには友人ブルックスによる、その作品が描かれた年の出来事、絵にまつわるささいな世間ばなしなどが添えられており、興味深い一種の年代記にもなっている。図版は、1844年の服飾流行、婦人の談話室（1848年）、社会スケッチ（1850年）、若い女性のための予備校（1851年）、ブルマーリズムの進行（1852年）、1863年の海辺のファッションなど21枚の手彩色エッチングを収めている。「パンチ・ポケットブック」は1841年ロンドンで発行された漫画雑誌「パンチ、ロンドン・シャリヴァリ（どんちゃん騒ぎ）」(Punch, the London Charivari) の別冊として刊行されたものと見られる。この「パンチ・ポケットブック」には、「パンチ」誌の画家たちの作品があり、リーチも多数の作品を発表している。

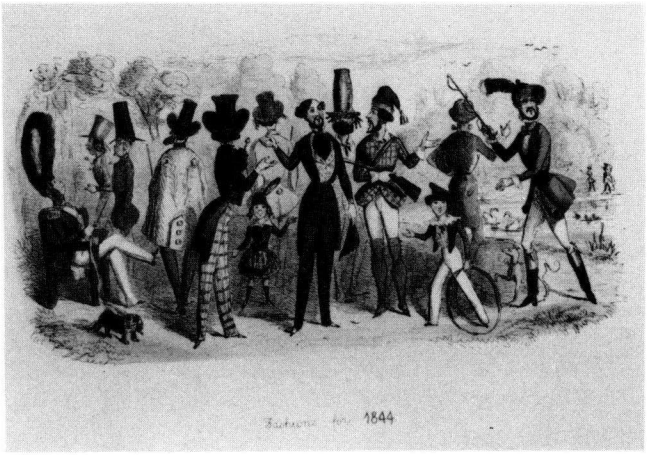
ジョン・リーチ（1817－1864）は、ロンドン、スタンフォード生まれ、父親も同名のジョン・リーチを名のるコーヒー店の経営者だった。16歳の時、父親の要望により、セントバートルミューで医学の勉強をはじめた。彼は、解剖図を得意とし、繊細で正確な仕上げは群を抜いていた。しかし、父親の経済的な事情により、医学を捨てて画家として生計を立てることになった。リーチは、まず、石版に当時の民衆生活を描くことから始めた。初期の作品には、1835年「A. ペン氏によるエッチングと写生」(Etchings and sketchings by A.Pen, Esq.) と題する市井の人々のシリーズで、4枚の四つ折り判に、辻馬車の運転手や辻音楽師、巡査、ロンドンの風変りなものや生活などを描いた。

彼の最初のヒット作は、巧妙な絵入りパロディーを封筒にデザインしたことだった。1840年「ロンドン・マガジン、騒音と婦人通信」(London Magazine, charivari and courrier des dames) に雇用され、「ベントリー雑録」(Bentley's Miscellany) 誌に挿画を描いた。翌1841年、リーチは生涯の仕事となる「パンチ」誌と始めてかかわりをもつことになる。彼の作品は、4号から掲載され、最初の作品は「パンチ」誌の売り上げを急増させた。「パンチ」誌に載せた作品は、のちに、1854年から69年までの「パンチ氏画集」(Pictures of life and character 1854－69）と題し、度々刊行された。この時から没年の1864年まで「パンチ」誌の絵画部主幹として活躍し、同誌に石版、木版、銅版画による総計3000枚をこえる作品（うち600枚が漫画）

を発表した。1843年　ディッケンズ(C. Dickens) 著「クリスマス・キャロル」(Christmas carol), 1847年 ベケット (G. A. Á Beckett) 著「イギリス漫画史」(Comic history of England) の挿画はリーチの代表的な作品である。これら娯楽小説の挿画など、ユーモアのある風俗を描いたエッチングは、リーチ自ら下絵を描いたのち、手でぼかしを効果的に施した。多くの図版は白黒であったが、しばしば色刷りも要望され、細部での技術上の改善と工夫を重ねて完成された。1862年、「パンチ」誌に載せた挿画から作品を選び、拡大してカンバスに描いた「油彩スケッチ」と呼ばれるシリーズをピカデリーのホールで展示した。この展示は財政的には成功であったが、芸術的観点からは、ほとんど論争の余地のないものとされ、一部の芸術家たちは「彼の労作は完成された絵画というべきものではない」と批評した。

リーチは、180センチの背丈、体格も立派で、容ぼう(貌)もよく、彼の友人や仲間たちは、彼は気品があり、優しく、魅力ある人物とほめたたえている。他方、演劇に興味をもち、自ら素人劇に出演した。また、スポーツを愛好し、作品には、様々なスポーツの描写が見られる。リーチの絵画活動は、19世紀中期、クリュークシャンク(G. Cruikshank) とデュ・モリエール(Du Maurier) の間に位置し、この分野での初期の露骨で野卑な表現から、今日の礼儀正しい穏和な風刺画へと移行する過程で欠くことのできない役割を演じた。彼のユーモアは、愛情深く、高潔で、慣習とか、あるいは健康で美しい婦人、幼年時代の魅惑的な気まぐれを描き、気取りや見せかけなどの社会的欺まんをきらったが、容赦できる奇抜さや人を傷つけないうぬぼれなどには温かい視線を向けた。リーチの作品における色彩や仕上げの微妙な線は，ユーモアあふれる庶民生活を見事に現わしており、J. ラスキンも「我々市民階級の最も厳密な定義と気取らない本来の歴史を表現して、その弱点を優しく、巧妙な手法で描いている。」と評している。

本書の他に、本館には、以下のリーチの作品がある。"Pictures of life & character, from to the collection of Mr. Punch" の5回シリーズのうち、第1回と第3回目(文献番号11－62)、同じく「パンチ」誌からの作品集1842年より1864年までの "John Leech's pictures of life & character" と題する3冊本（文献番号11－60)。後者には、シリーズ番号はなく、判型も前者と異なっているが、同一出版社（出版者名も幾分異なっている）から、別々に刊行されたものと思われる。



図は、「1844年の服飾流行」。この絵は、仕立屋が彼の様々な客を得意げにながめている光景を風刺的に描いている。